



埼玉の社叢

すがや
菅谷神社

比企郡嵐山町菅谷六〇八

嵐山町菅谷は、かつて鎌倉時代初期の武将であったはたけやまげただ畠山重忠の居城、菅谷館が置かれた地である。現在の菅谷館跡（国史跡比企城館跡群菅谷館）の遺構は、戦国時代に拡大整備されたものであるが、かつての重忠の館はこの本郭部分にあったと推定されている。

当社は、この館跡から北北東へ五百メートルの位置にあり、由緒によると、畠山重忠が「軍功により菅谷の地を賜り、ここに新城を築き居住となし武運長久の守護神として近江国日吉山に鎮座なす日吉山王権現（日吉大社）の御分霊を誓願により建久元年（一一九〇）九月十九日に奉遷勧請す故に日吉山王大権現と称せし」とある。

『吾妻鏡』には、建久元年九月十六日の条に「十六日丁卯ひのちう。畠山次郎重忠自武蔵国参上。是為御上洛供奉也。」と見え、重忠は、文治五年（一一八九）の奥州征伐では先陣を勤め戦功をたて、建久元年十月の源頼朝の上洛には、先陣を勤めている。よって、当社の奉遷勧請は、その準備のための帰城中にあたることから、奥州制圧成就によるものと推測される。

こうして江戸時代までは「山王社」または「山王宮」と称していたが、明治初年には「日枝神社」と改称され、さらに、明治四十年に大字内の菅谷館三番郭の土手上にあった天神社と、畠山重忠が城の鬼門除けに稲荷山古墳（町指定史跡）上に祀ったとされる稲荷神社という、菅谷館に縁のある神社を合祀して、現在の社号「菅谷神社」に改称した。

当社の五十八アールの社叢はスギの単純林であるが、百メートル以上も続く参道両側や社殿周辺にも百年以上の樹齢のスギが鬱蒼と林立しており、中でも社殿の西側にある幹周り四メートルのスギの御神木は、嵐山町の天然記念物に指定されている。